



子育て・教育・福祉部会資料

施策1-6-2 信頼される市立病院の運営

病院局
平成30年6月

施策の概要

概要 背景 取組 成果 まとめ

基本政策（1層） 生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

政策（2層） 市民の健康を守る

施策（3層） 信頼される市立病院の運営

直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する

主な事務事業

- 川崎病院の運営
- 井田病院の運営
- 多摩病院の運営管理
- 良質な医療の提供を担う人材の確保・育成
- 経営健全化の推進
- 井田病院改築工事の推進



実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標①		入院患者満足度			
算出方法	市立病院で実施している入院患者の満足度調査において、満足～不満足 of 5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合(市立3病院の平均値)				
指標の考え方	職員の対応や療養の内容など、提供している医療サービスに対する患者の満足度は、医療の質を測る上で直接的な評価指標の一つであり、患者満足度を見ることで市立病院が取り組んでいる医療の質及び患者サービスの向上に向けた取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	87.5%(H27)	88.4%(H29)	90.0%(H33)	90.0%(H37)	
目標値の考え方	一般社団法人日本病院会が実施した患者満足度に関する調査(H26)の平均値(入院患者満足度89.3%、外来患者満足度81.7%)を超えることを目標とする。				
成果指標②		外来患者満足度			
算出方法	市立病院で実施している外来患者の満足度調査において、満足～不満足 of 5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合(市立3病院の平均値)				
指標の考え方	職員の対応や療養の内容など、提供している医療サービスに対する患者の満足度は、医療の質を測る上で直接的な評価指標の一つであり、患者満足度を見ることで市立病院が取り組んでいる医療の質及び患者サービスの向上に向けた取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	77.6%(H27)	79.3%(H29)	82.0%(H33)	82.0%(H37)	
目標値の考え方	一般社団法人日本病院会が実施した患者満足度に関する調査(H26)の平均値(入院患者満足度89.3%、外来患者満足度81.7%)を超えることを目標とする。				



実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標③		病床利用率(一般病床)			
算出方法	病院のベッドの利用状況の割合 入院延患者数/年間の許可病床数(入院延患者数の受入最大値) × 100(%) (市立3病院の平均値)				
指標の考え方	入院延患者数を確保し、病床を安定的に稼働させることは、より多くの入院患者に適切に医療を提供することになるとともに、安定的な病院経営にも資することから、市立病院の経営面での取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	72.9%(H26)	83.0%(H29)	83.0%(H33)	83.0%(H37)	
目標値の考え方	入院患者の確保に努め、安定的な病床運営をめざす必要があることから、全国の類似自治体病院の状況等を参考としつつ、病床利用率の向上をめざす。				
成果指標④		救急患者受入数			
算出方法	夜間や休日等の診療時間外に診察等を受けた患者数及び診療時間内に救急車で搬送された患者数の合計(市立3病院の合計値)				
指標の考え方	川崎病院は救命救急センター及び小児急病センター、井田病院及び多摩病院はそれぞれ救急告示病院の役割を担っている。各病院の役割に応じた救急患者を適切に受け入れることで、市立病院が市内救急医療体制の一翼を担っていることを示す指標とする。				
指標の目標値	49,873人(H26)	50,800人(H29)	52,000人(H33)	52,500人(H37)	
目標値の考え方	救急車の出動回数は年々増加しており、今後高齢化の進展に伴い、救急医療の更なる需要の増大が見込まれている。今後も病院の役割に応じた救急患者を適切に受け入れていく必要があることから、過去の実績を参考としつつ、救急患者受入数の増加をめざす。				



公立病院の果たすべき役割

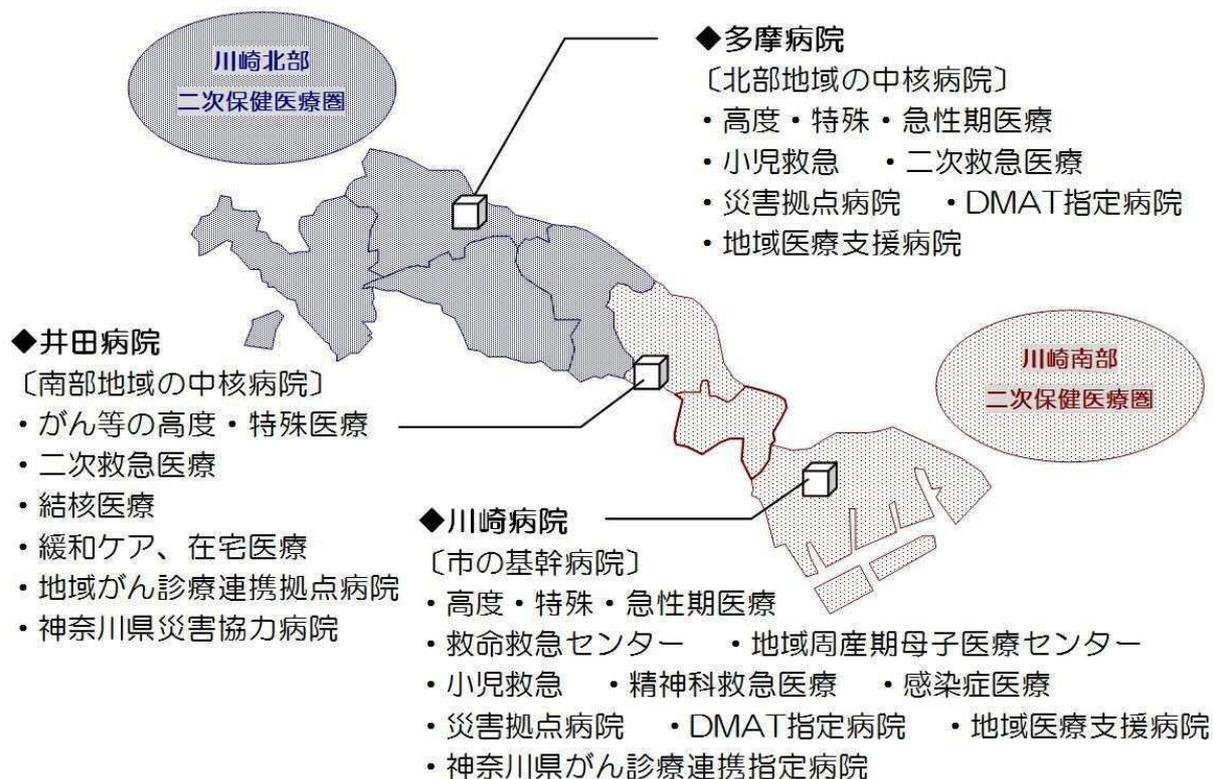
公立病院の果たすべき役割

「公立病院をはじめとする公的医療機関の果たすべき役割は、端的に言えば、地域において提供されることが必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することにある。」(公立病院改革ガイドライン)

【公立病院に期待される主な機能と具体例】

- ①山間へき地・離島など民間医療機関の立地が困難な過疎地等における一般医療
・へき地医療拠点病院
- ②救急・小児・周産期・災害・精神などの不採算・特殊部門に関わる医療
・救命救急センター ・地域周産期母子医療センター ・災害拠点病院
・小児救急医療拠点病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・感染症病床
・結核病床 ・救急告示病院
- ③がんセンター等地域の民間医療機関では限界のある高度・先進医療
- ④研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能
・臨床研修指定病院
など

市立病院の役割【市立3病院の機能】



市立病院の役割【川崎病院】

概要 背景 取組 成果 まとめ

川崎市立川崎病院

- 川崎病院は、**市の基幹病院**として、「**高度・特殊・急性期医療、救急医療**」を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、「**精神科救急医療の基幹病院**」としての機能も担っています。
- また、「**市内唯一の感染症病床**」における二類感染症患者の受入や、「**災害拠点病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院**」としての役割を担っています。



診療科目【42科】

- 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、新生児内科、ペインクリニック内科、肝臓内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、血管外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科



Colors, Future!
川崎市

施策1-6-2 信頼される市立病院の運営



7

市立病院の役割【井田病院】

概要 背景 取組 成果 まとめ

川崎市立井田病院

- 井田病院は、**南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院**として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、「**市内唯一の結核病床を有する病院**」として、結核患者への透析の対応も行っています。
- また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。



診療科目【37科】

- 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、人工透析内科、肝臓内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科



Colors, Future!
川崎市

施策1-6-2 信頼される市立病院の運営



8

市立病院の役割【多摩病院】

川崎市立多摩病院(指定管理者制度により聖マリアンナ医科大学が運営管理)

- 多摩病院は、北部地域の中核病院として、小児救急を含めた救急医療を中心に、**高度・特殊・急性期医療**などを提供するとともに、**災害拠点病院**としての役割を担っています。
- また、**地域医療支援病院**として、**地域のかかりつけ医等と連携し**、支援しながら**地域全体の医療供給体制の向上**を図っています。



診療科目【32科】

- 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科

市立3病院の稼働実績

平成29年度 稼働状況

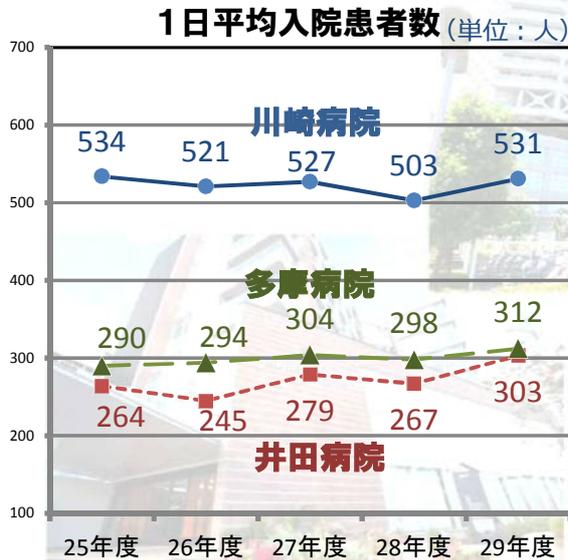
	川崎病院	井田病院	多摩病院
病床数	713床 一般663床 感染 12床 精神 38床	383床 一般343床 結核 40床	376床 一般376床
入院患者数(1日平均)	531.0人	303.3人	311.8人
病床利用率(一般病床)	77.1%(※)	82.2%	82.9%
平均在院日数(一般病床)	11.6日	15.9日	10.3日
外来患者数(1日平均)	1,371.3人	647.7人	803.7人
紹介率	65.9%	56.1%	68.3%
逆紹介率	84.5%	63.1%	51.0%
救急患者受入数	27,753人	7,481人	12,175人
救急自動車搬送受入台数	6,451件	2,614件	4,468件

※川崎病院の病床利用率(一般病床)は、実稼働病床(602床)ベースでは84.9%。

市立3病院の稼働実績(患者数の推移)

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成29年度の入院患者数は、川崎病院と井田病院では平成28年度と比べ増加、多摩病院では概ね横ばいとなっています。
- 平成29年度の外来患者数は、川崎病院では逆紹介の推進による患者数の適正化の取組により平成28年度と比べ減少、井田病院と多摩病院では概ね横ばいとなっています。



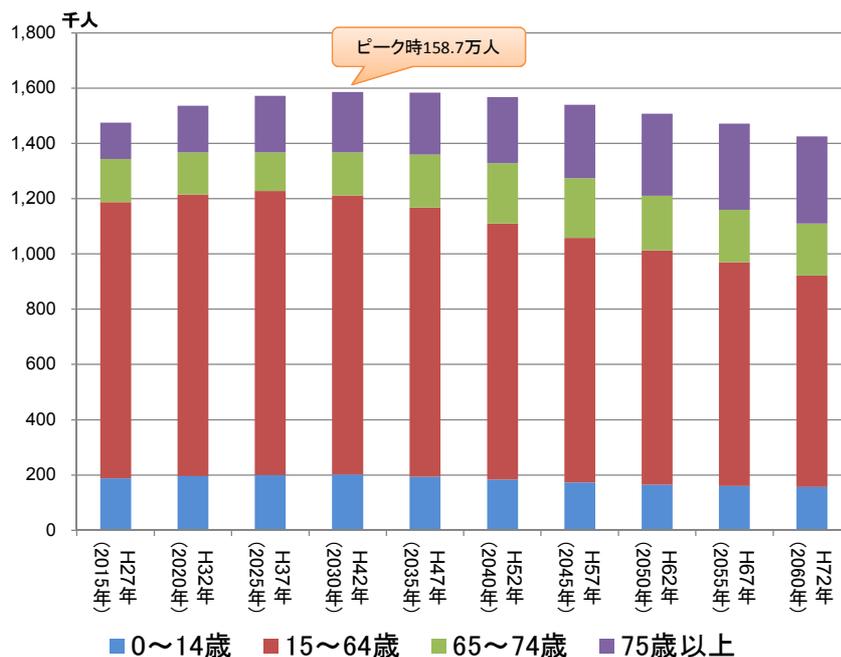
Colors, Future! 川崎市 施策1-6-2 信頼される市立病院の運営



市立病院を取り巻く環境(人口増加と高齢化)

概要 背景 取組 成果 まとめ

■本市における年齢区分別将来人口推計



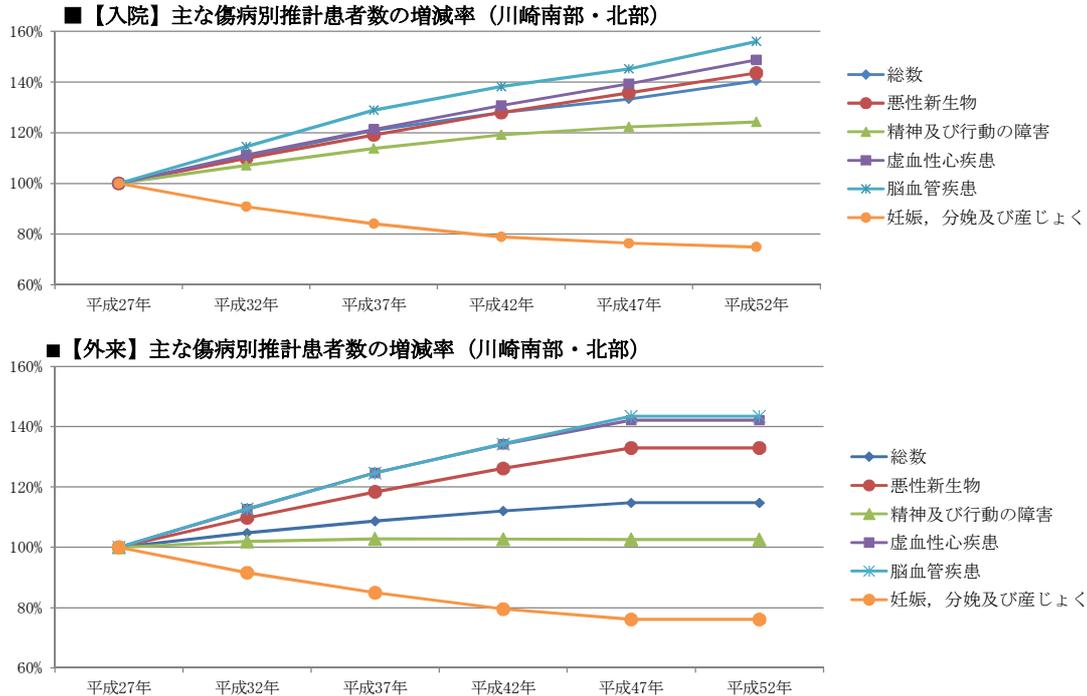
- 今後本市では、当面人口増加が続き、2030年に158.7万人でピークを迎える見込みです。
- 一方で老年人口も増加を続け、それに伴い、がん、心疾患、脳血管疾患等に対する医療需要が増加することが見込まれています。

川崎市総合企画局「新たな総合計画の策定に向けた将来人口推計について」(平成29年5月)から

市立病院を取り巻く環境(医療需要の増加)

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成47年までの本市の将来推計患者数は、平成27年と比べると、高齢化の進展に伴い、入院総数が33%程度、外来総数が15%程度増加する見込みとなっています。



出典：厚生労働省「平成26年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）から推計

13

市立病院を取り巻く環境(救急搬送の増加)

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 神奈川県地域医療構想によると、将来の救急搬送件数は増加を続け、平成52（2040）年には平成27（2015）年と比較して、1.2倍以上になると予想されています。

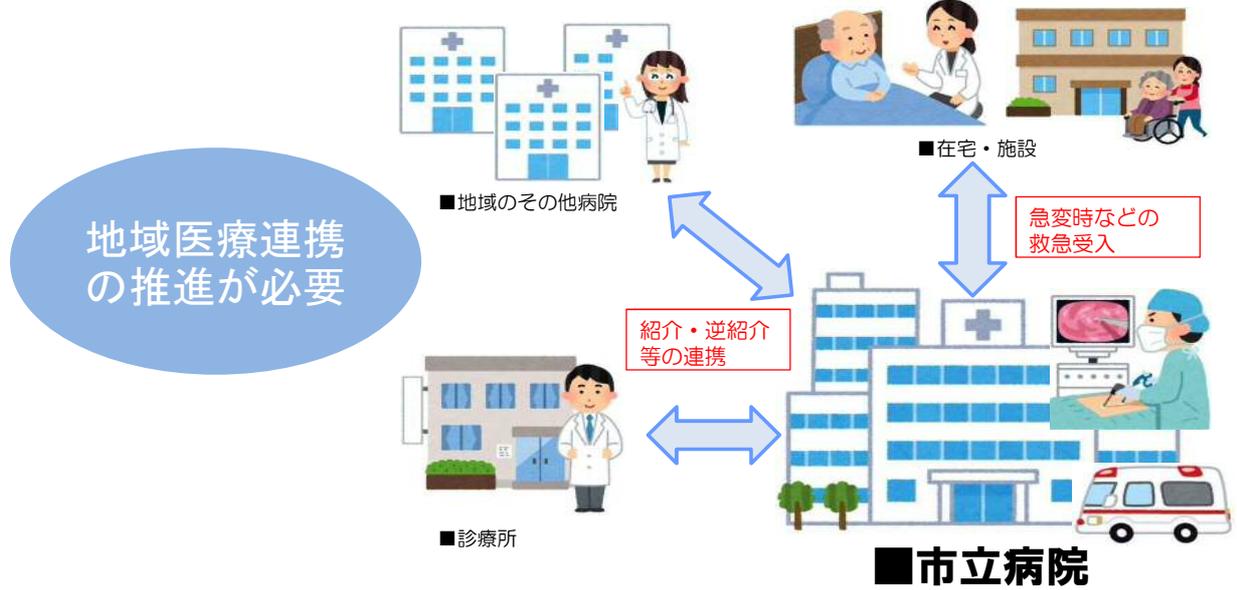


出典：神奈川県地域医療構想（平成28年10月）

市立病院を取り巻く環境(地域医療連携)

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 今後増加が見込まれている医療需要に対して、市立病院として適切に対応をしていく必要がある一方で、市立病院が全ての機能を有するのではなく、地域の病院、診療所等の医療関連施設と適切な機能分化及び連携をしながら、地域の医療需要に応えることが求められています。
- また、福祉・介護施設とも連携し、**地域包括ケアシステム**の推進が必要となっています。



市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 取組 成果 まとめ



川崎病院

- 救急やがん等の医療機能強化の具体的な規模や配置等を検討し、医療機能再編整備基本計画を策定
- 地域の医療機関関係者と連携強化のため地域医療連携の会を開催
- 患者総合サポートセンターの設置準備
- 本市南部地域で初となるPET-CT装置の導入



井田病院

- 胃がん内視鏡検診の充実
- | | H28 | H29 |
|--------|------|--------|
| 検診枠の拡充 | 週36枠 | 週41枠 |
| 検診の実施 | 827件 | 1,028件 |
- 連携登録医制度の取組を推進(連携登録医331医療機関)
 - 再編整備事業の3期工事として、立体駐車場、院内保育所等を整備
 - 駐車場の民営化・有料化



多摩病院

- 指定管理者制度による効率的な病院運営の実施
- 運営協議会における委員からの意見聴取の実施(2回)
- 24時間365日の救急医療、小児救急医療等の継続的提供
- 建設改良工事等の実施及び血管撮影装置、透析装置システム等の更新

市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

救急医療の強化

- 川崎病院では、小児科初期救急患者を受け入れる**南部小児急病センター**や、重篤な救急患者の診療に当たる**救命救急センター**を運営しています。「断らない救急医療」を掲げ、重篤な救急搬送患者については、ほぼ断ることなく受け入れを行っており、今後もより効率的に受け入れられるよう体制の整備を進めます。
- 井田病院は、市のほぼ中央に位置する救急告示病院として、24時間体制で救急搬送患者の受け入れに対応します。
- 多摩病院は、救急告示病院として、川崎北部保健医療圏において小児救急医療も含めた24時間体制の救急医療を継続的に提供します。



川崎病院 救命救急センター

市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

災害医療機能の維持・確保

- 川崎病院及び多摩病院は、**災害拠点病院**として、災害時における重症患者の受け入れや救命医療、広域的な搬送の対応などを行うとともに、井田病院は、**神奈川県災害協力病院**として災害拠点病院と連携し、傷病者等の受け入れや治療を行います。
- 川崎病院では、市内で発生した災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する「**市内救急医療派遣事業**（通称：Kawasaki ONE PIECE）」や、大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する**川崎DMAT**（災害医療派遣チーム：Disaster Medical Assistance Team）、神奈川県内外で発生した大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する**神奈川DMAT**など、災害時における医療提供体制を確保しているほか、健康福祉局と連携し、被災地域で専門性の高い精神科医療等を提供する**DPAT**（災害派遣精神医療チーム：Disaster Psychiatric Assistance Team）の編成・派遣にも取り組んでいます。
- 多摩病院においても、平成26年3月から**神奈川DMAT**の指定病院となるなど、災害時医療の充実に努めています。

熊本地震で災害時医療にあたる市立病院DMAT隊



市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

がん診療機能の強化

- 川崎病院は、平成29年4月から「神奈川県がん診療連携指定病院」として、また、井田病院は、平成18年8月から「地域がん診療連携拠点病院」として、質の高いがん医療機能・体制を確保するとともに、患者等に対する相談支援を行うことにより、地域のがん医療水準の向上や患者サービスの向上にも努めています。
- 平成28年度には、川崎病院及び井田病院において、患者にとってより身体的負担の少ない先進的な手術支援ロボット「**ダ・ヴィンチ**」を導入し、がん医療の需要の変化への対応と、更なる安全・安心な医療の提供に取り組んでいます。
- 平成30年3月には、1回の検査で全身のがん細胞の位置や大きさなどを調べることができ、がんの早期発見や進行度の診断、転移・再発を高い精度で検査することができる「**PET-CT**」を本市南部地域で初めて、川崎病院に導入しました。



参考資料

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

PET-CT とは

陽電子断層撮影法(PET)と、コンピュータ断層撮影法(CT)を融合させたもの。平成15年に初めて薬事承認を受ける。

「がん細胞は正常な細胞に比べて多くのブドウ糖を取り込む」という性質を利用した検査で、**ブドウ糖に極微量の放射線放出物質をつけた薬剤 (FDG) を患者に注射**し、そこから放出される**微量の放射線をPETカメラで捉え**、がん細胞の位置や大きさ等を調べる。

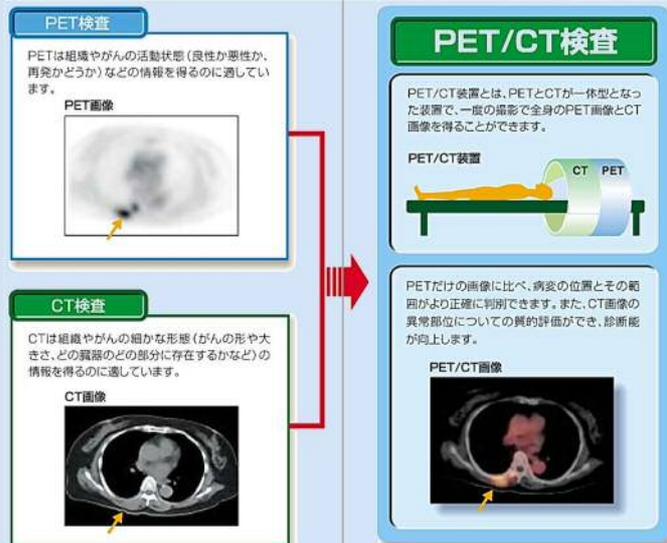
一度に全身の検査ができるため、**がん転移の有無の診断や、がん検診**などに有用性がある。

市内では北部地域の1施設のみ。

<近隣の主な導入施設>

川崎市内 / 新百合ヶ丘総合病院
 神奈川県内 / 横浜市立市民病院
 ゆうあいクリニック
 横浜市大附属病院
 横浜市立みなと赤十字病院
 小田原市立病院
 藤沢市市民病院 ほか

直営2病院からだけでも、年間600件近く外部の導入施設に検査依頼をしている。



市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

地域周産期母子医療センターの運営〔川崎病院〕

- 川崎病院では、**新生児集中治療管理室(NICU)**6床を運営しており、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる施設として、**地域周産期母子医療センター**(平成22年4月認定)の役割を担っています。
- 平成25年度においては、NICUの後方支援病床である**新生児治療回復室(GCU)**の病床数を、12床から18床に増床しました。
- 市民が安心してお産ができるよう、同センターの安定的な運営を行い、市内**周産期救急医療システム**における**中核病院**として、体制の充実に努めています。



川崎病院 NICU

市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

緩和ケアの推進〔井田病院〕

- がんなどで治ることが難しい患者に対して、痛みや苦しみを和らげ生活の質(QOL)を高めることにより、患者やその家族を身体的、精神的に支援する緩和ケアの提供が重要となっています。
- 井田病院では、医師、臨床心理士、看護師、栄養士、薬剤師など多職種の緊密な連携による**チーム医療・ケア**を行っており、患者の病状に合わせて、入院、外来のいずれであっても、安心して緩和ケアを受けることが可能となっています。また、がんの末期など医療依存度の高い患者でも在宅で療養できるよう、往診、訪問看護等の**在宅緩和ケア**も実施しています。
- 今後、高齢化の進展によるがん患者の増加に伴い、緩和ケアを必要とする患者の増加が見込まれることから、平成26年5月に既存の緩和ケア病棟を20床から23床に増床するなど、緩和ケア医療の提供を推進しています。

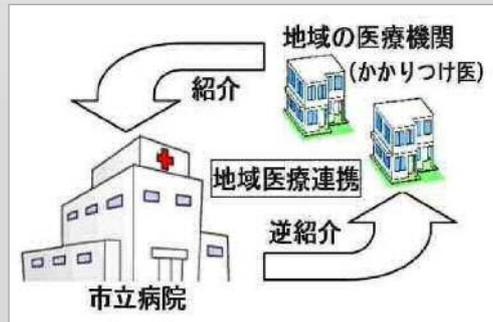


井田病院 ケアセンターカンファレンス

市立病院における平成29年度の主な取組

地域医療連携の推進

- これまで長く続いた病院完結型の医療提供体制は、高齢化の進展に伴い、地域完結型の医療提供体制に移行しているところであり、より一層の地域医療連携が求められています。そのため、地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携を図る観点から、国ではかかりつけ医等を支援する医療機関として「**地域医療支援病院**」を整備することとしています。
- 多摩病院では、開設当初から地域の医療機関との連携を進めてきたところから、平成23年2月に地域医療支援病院の承認を受け、同年3月から運用を開始しました。
- 川崎病院についても、地域医療連携の実績が認められ、平成28年3月に地域医療支援病院の承認を受けました。今後も引き続き、紹介患者に対する医療の提供を推進するとともに、医療機器の共同利用や地域の医療従事者を対象とした研修の実施、救急医療の提供などの役割を果たしてまいります。



市立病院における平成29年度の主な取組

地域包括ケア病棟の運用〔井田病院〕

- 平成26年度の診療報酬の改定において、病院と在宅との円滑な橋渡しを目的として、「**地域包括ケア病棟**」の制度が新設され、井田病院においても、平成28年8月に一般病棟からの機能転換により45床整備し、運用を開始しました。
- 入院患者の在宅復帰に向けたリハビリテーション医療の提供や、療養指導等の役割を担うほか、地域の在宅療養患者等の緊急時の受入などについても推進しています。

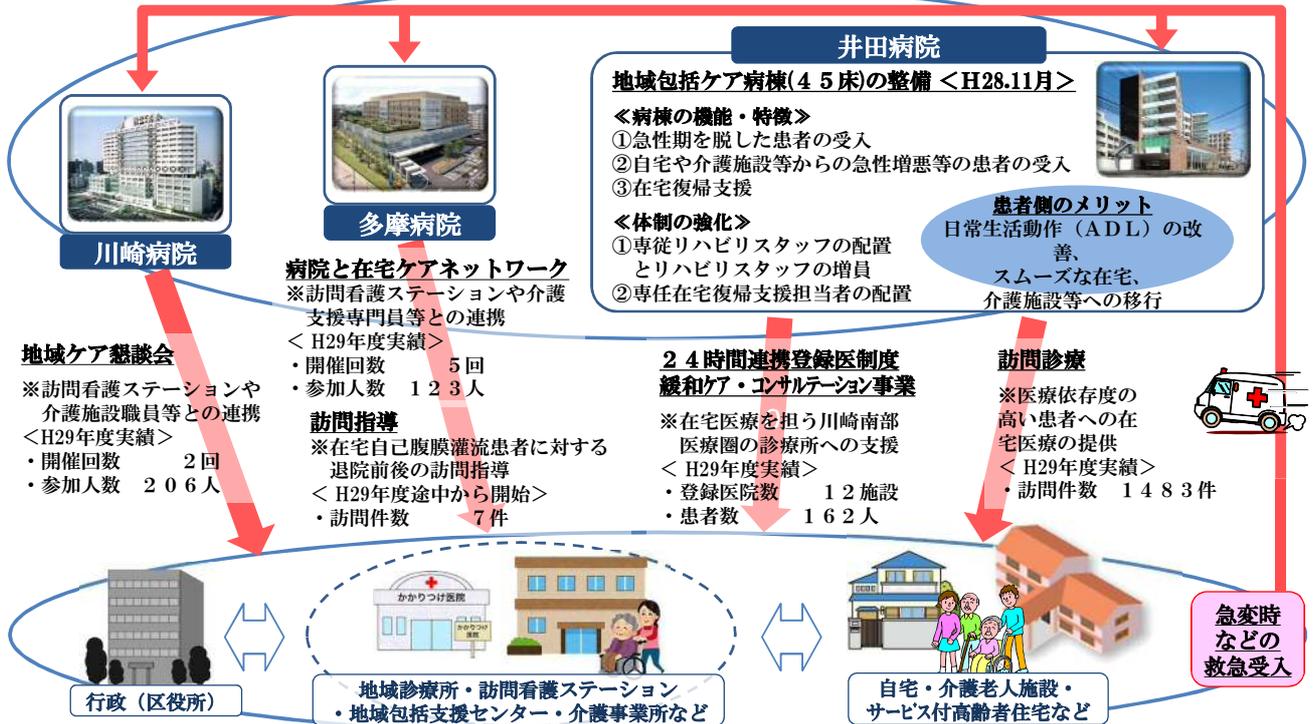
地域包括ケア病棟のイメージと役割



市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

地域包括ケアシステムの推進(円滑な在宅復帰に向けた市立病院の取組)



市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

結核・感染症医療の確保

- 川崎病院では、市内唯一の感染症病床を、また、井田病院では、市内唯一の結核病床を有しており、いずれも**第二種感染症指定医療機関**に指定されています。
- 感染症病床を有する川崎病院では、新型インフルエンザを始めとする感染症患者が搬送されたことを想定した対策訓練を定期的に行っており、市の感染症医療を支えています。



川崎病院 新型インフルエンザ対策仮設テント

市立病院における平成29年度の主な取組

概要 背景 取組 成果 まとめ

医療機能再編整備の推進〔川崎病院〕

川崎病院は、現在の建物整備後に救命救急センター等を整備してきたことなどから、施設内が狭隘となっており、今後増加する医療需要等に適切に対応するため、ハード・ソフト両面での機能強化を推進する「医療機能再編整備基本計画」を平成30年3月に策定しました。

1 整備内容

種別	主な整備内容
増築 スマート化	救急棟 <ul style="list-style-type: none"> 1階：ER（救急救命室） 2階：救命病棟（20床を9階南病棟から移設）
	エネルギー棟 <ul style="list-style-type: none"> 4階建て（想定） 地下設備を移設（更新） 1階に売店（移設・拡充、イートイン）
	給水ポンプ棟 <ul style="list-style-type: none"> 1階：給水ポンプ室 2階：医療ガス室
改修	院内改修 <ul style="list-style-type: none"> 患者総合サポートセンターの設置（相談窓口の集約・地域連携強化） 内視鏡センター、外来化学療法室の拡充（がん診療機能強化） 感染症病床の個室化 精神科病棟の保護室（2室）増設（精神科救急の受入体制強化） など
	外構 <ul style="list-style-type: none"> 駐輪場⇒バイク置き場に移設 バイク置き場⇒駐車場に移設

2 配置図

3 全体スケジュール

経営状況を見極めながら、段階的に推進

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
エネルギー棟 給水ポンプ棟			設計・施工						
救命救急センター棟 既存棟（改修）	基本計画	県・国協議	基本・実施設計	増築工事		改修工事			

4 事業費

項目	概算事業費
院内改修工事費	1,685
建設工事費	546
外構工事費	64
設計・監理費	326
医療機器整備費	303
消費税	292
合計（税込）	3,216

成果指標①と②の達成状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

①入院患者満足度(29年度)の状況

- 各市立病院が実施する入院患者の満足度調査(サンプル数250~400人/各病院)の総合満足度(市立3病院平均値)を成果指標としており、平成29年度の実績については、目標値を2.3ポイント下回りました。

	H28	H29
目標値	88.0%	88.4%
実績値	87.6%	86.1%
現状値(※)	87.5%(H27)	

※「現状値」は目標設定時の現状値のこと。以下同じ。

②外来患者満足度(29年度)の状況

- 各市立病院が実施する外来患者の満足度調査(サンプル数350~700人/各病院)の総合満足度(市立3病院平均値)を成果指標としており、平成29年度の実績については、目標値を1.2ポイント下回りました。

	H28	H29
目標値	78.4%	79.3%
実績値	76.8%	78.1%
現状値	77.6%(H27)	

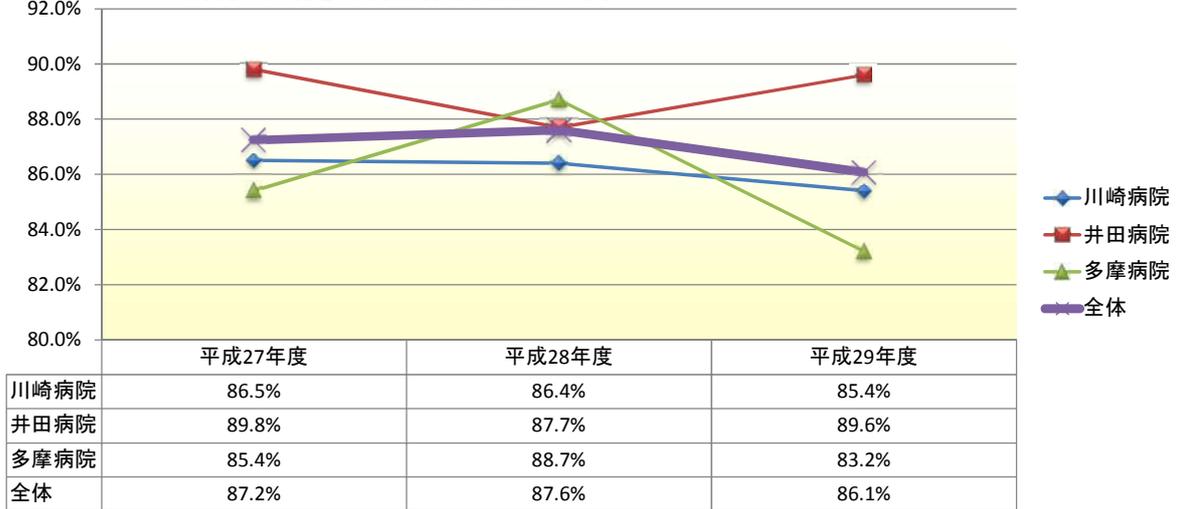
満足度：「この病院について総合的にどう思われますか。」の問いに「満足」又は「やや満足」と答えた人の割合

成果指標①の達成状況(病院別)

入院患者満足度(29年度)の状況

	目標値	実績値	達成状況
川崎病院	87.5%	85.4%	未達
井田病院	90.4%	89.6%	未達
多摩病院	87.4%	83.2%	未達

■市立3病院の入院患者満足度(実績値)の推移

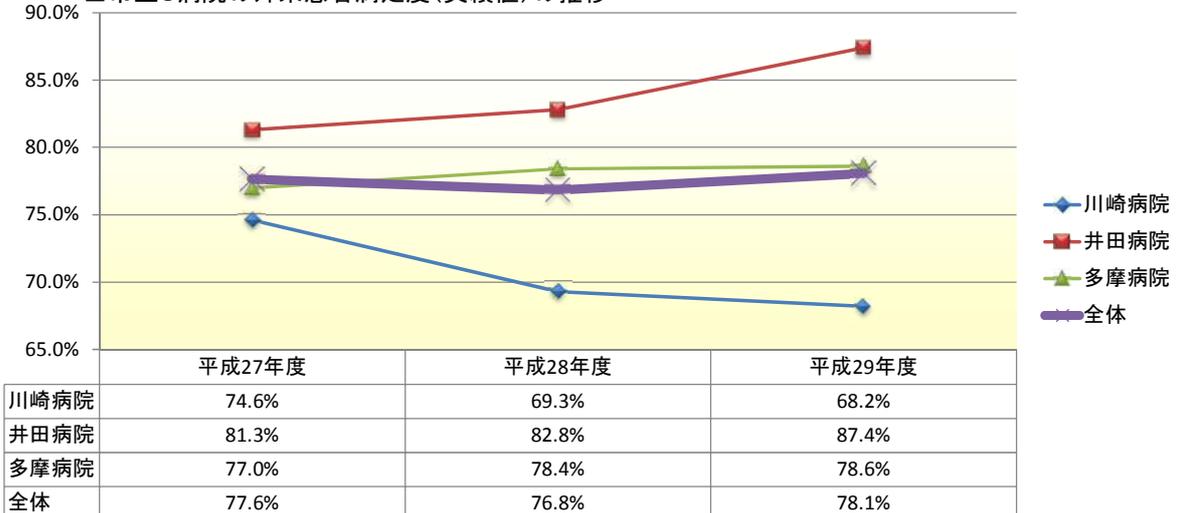


成果指標②の達成状況(病院別)

外来患者満足度(29年度)の状況

	目標値	実績値	達成状況
川崎病院	77.4%	68.2%	未達
井田病院	81.7%	87.4%	達成
多摩病院	78.7%	78.6%	未達

■市立3病院の外来患者満足度(実績値)の推移



成果指標①及び②の成果分析(目標未達成)

患者満足度調査を受けての問題点分析及びその改善の状況

- 川崎病院は、「くつろげる場所」、「待ち時間」、「案内表示」が低評価だったことから、外来の環境整備として、Wi-Fiやデジタルサイネージの導入、採血業務開始時間の繰り上げ、各診療科のサイン表示の変更などに取り組みました。しかしながら、院内施設が狭隘となっており、イートインスペースなどくつろげる場所の確保ができないため、今後予定している、医療機能再編整備の中で必要なスペースを確保することを計画しています。
- 井田病院は、待ち時間の長さを改善するため、外来会計の自動精算機を増設(1機)しました。そのことから、会計待ち時間が短縮されるなどの効果がありました。
- 多摩病院は、待ち時間の長さを改善するため、呼吸器内科の診療枠を新設(午後1枠)し、予約時間の分散による待ち時間の短縮を目指しました。
- 入院については、各病院とも「食事」についての評価が低いことから、変化を求める入院患者のニーズに対しては味付けや食感の微妙な違い、盛り付けや食器など見た目の工夫、献立の選択、行事や季節に合わせた献立作りなど、不断の改善に努めます。

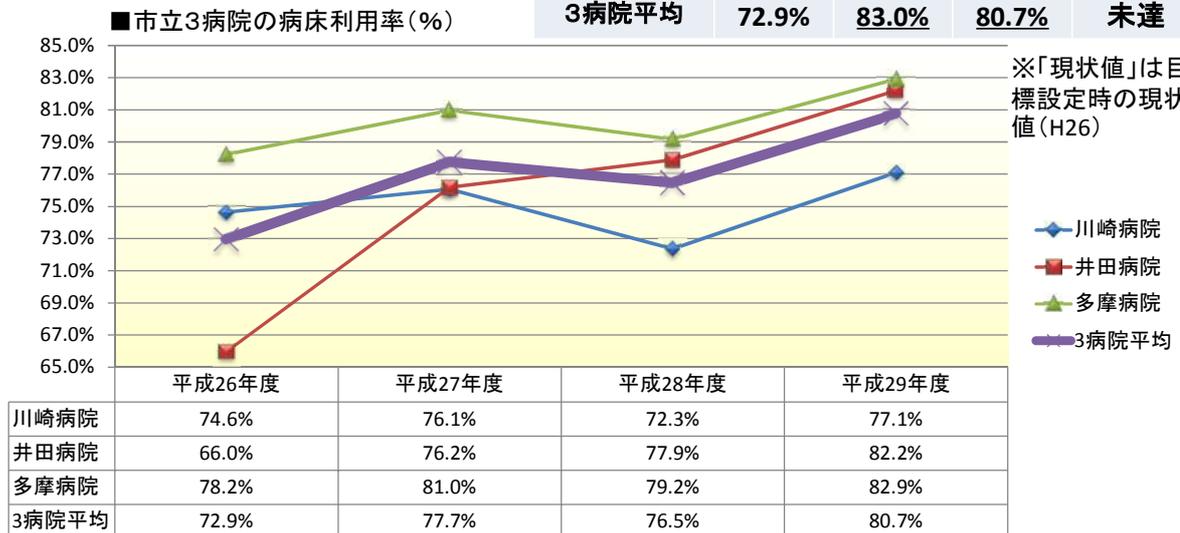


成果指標③の達成状況

病床利用率(一般病棟:29年度)の状況

- 各市立病院の一般病棟の病床利用率(市立3病院平均値)を成果指標としており、平成29年度の実績については、**目標値を2.3ポイント下回りました。**

	現状値	目標値	実績値	達成状況
川崎病院	74.6%	78.5%	77.1%	未達
井田病院	66.0%	90.4%	82.2%	未達
多摩病院	78.2%	80.0%	82.9%	達成
3病院平均	72.9%	83.0%	80.7%	未達

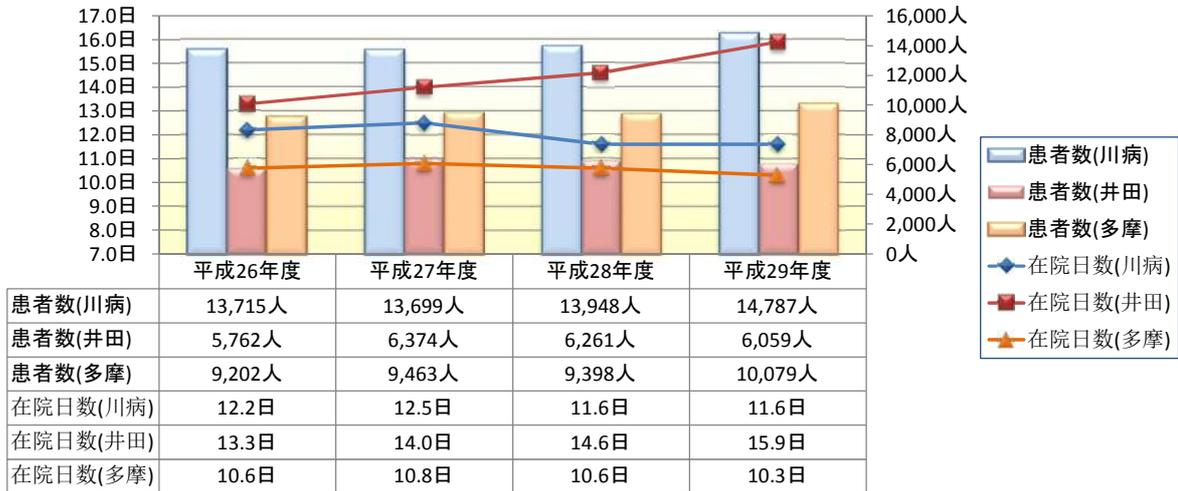


成果指標③の成果分析(目標未達成)

病床利用率(一般病棟:29年度)の状況分析について

- 川崎病院は、入院患者数の増加により直近4か年で最も高い利用率となりましたが、前述の地域の医療機関との機能分化・連携の推進によって平均在院日数が減少している影響もあり、目標値には達しなかったものと考えています。
- 井田病院については、平成27年度の新棟全面オープンから徐々に利用率が上昇傾向にありますが、医師確保などの課題もあり、想定していたほど利用率は上昇していないところです。

■市立3病院の一般病棟における平均在院日数(日)と入院患者数(人)



成果指標④の達成状況

救急患者受入数(29年度)の状況

- 各市立病院の「救急患者数の合計」を成果指標としており、平成29年度の実績については、目標値を3,391人下回りました。

	現状値	目標値	実績値	達成状況
川崎病院	29,864人	29,800人	27,753人	未達
井田病院	8,258人	8,900人	7,481人	未達
多摩病院	11,851人	12,100人	12,175人	達成
3病院合計	49,873人	50,800人	47,409人	未達

■市立3病院の救急患者数(人)

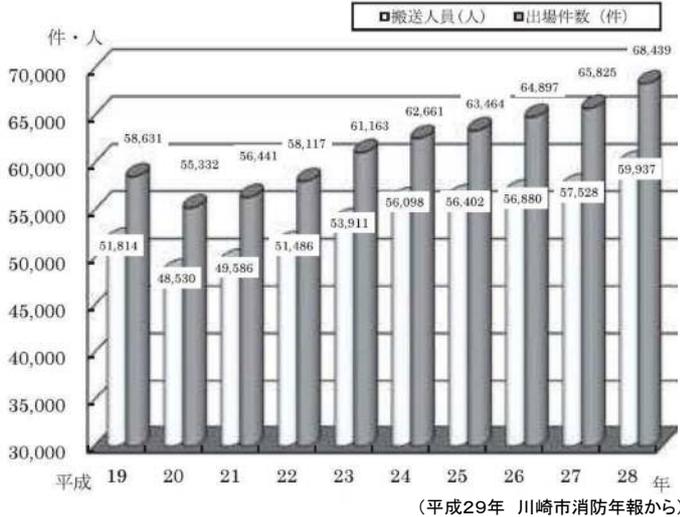


成果指標④の成果分析(目標未達成)

救急患者受入数の状況分析について

- 川崎市消防局の救急搬送人員は増加傾向にありますが、川崎病院及び井田病院への搬送人員数は減少傾向にあります。
- これは、近隣医療機関の救急医療体制の強化に伴い、川崎市消防局からの市立病院への救急受入要請数が減少傾向にあることが、原因の一つと考えています。

■川崎市消防局 救急活動の推移



■川崎市消防局からの救急受入要請数(件)



(川崎市消防局調べ)

その他成果(定性的な成果)

市立病院による地域に必要な医療の提供

- 一部成果指標が目標値達成に至らなかったものの、市立病院として救急医療、小児・周産期、精神科救急、緩和ケア、感染症・結核医療など、地域で必要とする医療の継続的かつ安定的な提供に努めています。

川崎病院の救命救急センター



断らない救急を掲げて3次救急患者(特に重症度の高い患者)の受け入れを行っています。(平成29年度の応需率99.4%)

井田病院の地域包括ケア病棟



病院と在宅との円滑な橋渡しを目的として、「地域包括ケア病棟」にて入院患者の在宅復帰に向けたリハビリテーション医療の提供や、療養指導等を行っています。

施策の達成状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

施策の達成状況

B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

理由

- ① 配下の事務事業の取組のうち、「川崎病院の運営」については、当該年度
の取組内容については、計画どおり取り組みました。
- ② 「井田病院の運営」については、地域医療支援病院の承認を目標として、
紹介率・逆紹介率などの要件はクリアしましたが、承認に必要とされるICU
をより効率的な病床運用が可能となるHCUに転換したため、本年度の申
請は戦略的に見送りました。
- ③ その他の事務事業については、ほぼ掲げた目標どおりに進捗しました。
- ④ 成果指標が目標値達成に至らなかったものの、市立病院として救急医療、
小児・周産期、精神科救急、緩和ケア、感染症・結核医療など、地域で必
要とする医療の継続的かつ安定的な提供に努めました。

【施策の達成状況区分】 A 順調に推移(目標を達成)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)
C 進捗が遅れた(現状を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れた(現状を大幅に下回った)

施策の今後の方向性

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

今後の方向性

Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理由

- ① 一部成果指標が目標値達成に至らなかったものの、市立病院として救急
医療、小児周産期、精神科救急、緩和ケア、感染症・結核医療など、地域
で必要とする医療の継続的かつ安定的な提供に努めました。
- ② 目標値を達成できなかった指標については、市立病院運営委員会におい
て、「市立病院中期経営計画2016-2020」の取組状況の進捗管理や点検・
評価を行うとともに、外部委員から意見をいただくなどして、改善に向けて
取り組みます。
- ③ 厳しい経営状況が続いていますが、地域に必要な医療を安定的かつ継続
的に提供していくため、収入確保や経費節減をはじめとした経営基盤の強
化に向けた取組を推進します。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市